板付遺跡弥生館について

竪穴住居をイメージした板付遺跡弥生館は、板付遺跡を紹介し、弥生時代のことを学ぶ施設です。館内では、板付遺跡の模型と大型画面の映像を見ながら皆さんといっしょに板付遺跡の不思議を考えます。

展示は、春、夏、秋、冬の季節ごとに板付弥生のムラの人びとがどんな生活をしていたのか、どんな道具を持っていたのかがわかるよう工夫しています。展示資料のほとんどは、発掘資料をもとに復元製作したものです。実際に手に取って確かめてみましょう。きっと弥生人の知恵や暮らしぶりが実感できることでしょう。

板付遺跡弥生館

板付弥生のムラについて

板付弥生のムラでは、春と秋にムラ祭りを行っています。春のムラ祭りは、復元した水田で田植えをします。秋のムラ祭りでは、実った稲穂を石庖丁（いしぼうちょう）で摘み取り、杵（きね）や臼（うす）で脱穀（だっこく）します。また、土器でお米を炊いたりして、弥生時代の生活体験ができます。

また、土器作りの講座や遺跡で遊ぼうなど様々なイベントも行っています。皆さんも板付弥生のムラ人になってみませんか。

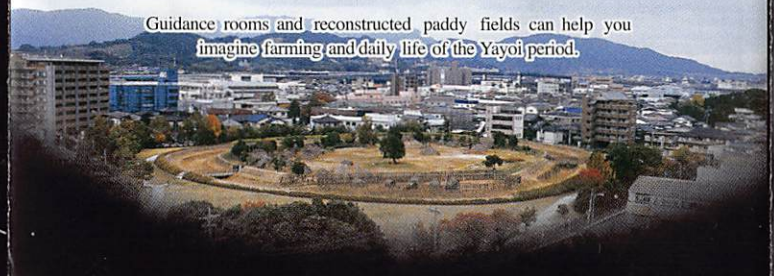
農具のいろいろ（復元品）

秋のムラ祭りの風景

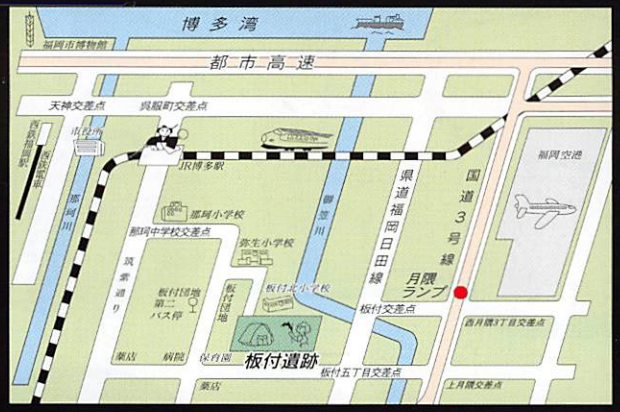
Itazuke Ruins

2400 years ago, the knowledges of rice farming, making metal implements and weaving clothes were brought to Japan. These foreign cultures accepted in Japanese history caused to change into a new phase of the Yayoi period from the Jomon period.
At the Itazuke ruins remains of houses, graves, paddy fields, granaries in the ground, and a moat surrounding a village have been excavated. This ruins has been known to be the first village having planted rice in Japan.

Guidance rooms and reconstructed paddy fields can help you imagine farming and daily life of the Yayoi period.



Access



交　通　●JR博多駅前
博多駅交通センター　13番のりば
西鉄バス　29・40系統「板付団地第二」下車

※板付遺跡の出土品は次の施設にも展示・収蔵しています。
福岡市博物館　早良区百道浜三丁目　TEL845-5011
福岡市埋蔵文化財センター　博多区井相田　TEL571-2921

福岡市　板付遺跡弥生館

〒812-0888 福岡市博多区板付三丁目21-1　TEL092(592)4936

開館時間　午前９時～午後５時（入館は午後４時30分まで）
休 館 日　年末年始（12月29日～翌年１月３日）
入 館 料　無　料（団体で見学する場合はあらかじめご連絡ください。）

THE RUINS OF ITAZUKE

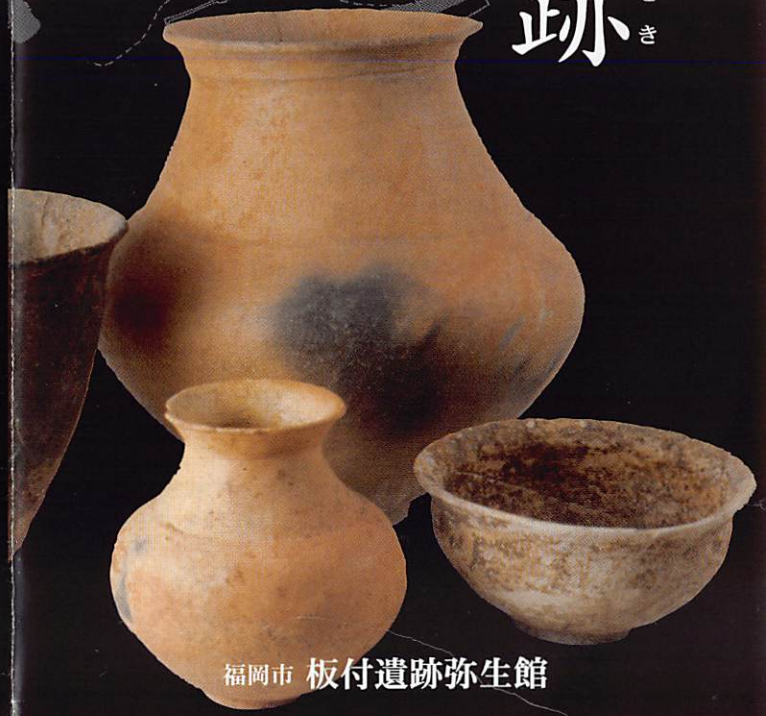
国史跡

「福岡市の文化財」
ホームページで紹介しています！
http://bunkazai.city.fukuoka.lg.jp/

板付弥生のムラへようこそ

板付（いたづけ）遺跡（せき）

虫たちの羽音
天空に舞う星座
稲穂をわたる風
身のまわりのみんなが
展示物です



福岡市　板付遺跡弥生館

夜臼式土器と板付式土器
（右の2個）　（左の2個）

ムラを取りかこむ濠

V字形の深い濠

弥生人の足跡

共同墓地

日本考古学協会の
発掘(昭和29年)

明治大学の発掘(昭和43年)

板付遺跡の発見

それは昭和25年１月のことです。

一人の青年が板付の畑で二つの土器を発見して感激の声をあげました。青年は、縄文時代最後の土器と弥生時代最初の土器が一緒に出る遺跡を長い間捜していたのです。昭和 22 年から始まった静岡県登呂遺跡の発掘で、はじめて水田の跡がみつかり弥生時代に稲作（米作り）が行われていたことが証明されました。

では稲作は、いつ、どこから伝わり、日本のどこで始まったのかが次の問題でした。二つの土器の発見で板付遺跡こそ、その謎を解く重要な遺跡と期待され、さっそく発掘調査が始まりました。

発掘調査は、日本考古学協会、明治大学、そして福岡市教育委員会と引き継がれてきました。これまでに深い濠に囲まれたムラや水田の跡が発掘され、日本で最初に稲作を始めた頃のようすがわかってきました。稲作の生活は、日本の文化を作り、その後の歴史を大きく変えました。

板付遺跡は、弥生時代初めのムラのようすが、よくわかる遺跡としてたいへん重要であることから昭和51年に国の史跡に指定されました。福岡市教育委員会では、市民に親しまれ、弥生時代を実感できる史跡公園として整備を行いました。

板付弥生のムラのようす

板付弥生のムラは、福岡平野のほぼ中央にあり、北、中央、南の三つの台地に分かれています。旧石器時代や縄文時代にも人が住んだ痕跡があります。大きなムラができるのは、次の弥生時代のことです。

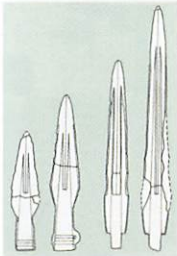
今から約2,400年前、稲作や金属器など新しい技術や風習を持った人たちが海を渡ってきました。板付では、台地の東西の低地を水田に変え米作りが始まりました。中央の台地には,幅約６m,深さ３mの濠が径108mの卵形にめぐり、この内側に食料を保存した貯蔵穴や竪穴住居があります。そして台地にそって用水路を掘り、その中には横木と木杭を組み合わせて井堰を設け、水田に送る水量を調整しました。水田は畦で長方形に区画されています。

鍬、鋤、えぶりなどの農耕具は、ほとんどが堅いカシの木で作られていますが、その形は現代と変わりません。実った稲穂は、石庖丁という石器で１本ずつ摘み取り、臼と杵で籾がらを取り除いていました。

このようにムラ人たちは、いろんな種類の道具を使い、高度な技術で稲作をしていたことがわかります。もちろん米だけを食べていたわけではありません。縄文時代と同じように動物や魚を取り、木の実を集め、そして海や山のムラとも食料を交換していたようです。

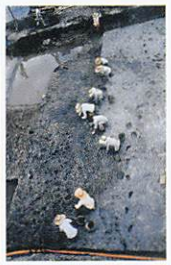
板付弥生のムラには、数ヵ所に墓地があります。ムラ人は甕棺や木棺に埋葬されました。中央台地の甕棺墓には、銅剣や銅矛を副葬したものがあります。板付ムラを中心に周辺のムラをおさめる指導者の墓でしょう。

その後、板付弥生ムラを取り囲んでいた濠はしだいに埋まり姿を消します。ムラのようすは大きくかわり、台地のあちこちに住居や井戸がつくられます。その後、板付ムラは弥生時代の終わりまでつづきます。



銅矛と銅剣

復元した竪穴住居



水田の発掘(昭和53年)